

(参考情報) 韓国農林畜産食品部公表情報

農林畜産食品部プレスリリース (2017年12月26日23時07分付け) 全羅南道靈岩郡の種あひる農場においてH5亜型AI抗原検出

出典 URL:

http://www.mafra.go.kr/list.jsp?&newsid=155450144§ion_id=b_sec_1&pageNo=1&year=2017&listcnt=10&board_kind=C&board_skin_id=C3&depth=1&division=B&group_id=3&menu_id=1125&reference=2&parent_code=3&popup_yn=N&tab_yn=N

(機械翻訳等に基づく仮訳)

- 農林畜産食品部(長官:キムヨンロク)は、12月26日(火)、全羅南道靈岩郡の種あひる農場(飼育規模:9,700羽)におけるAI検査の結果、H5亜型AI抗原が検出されたと発表した。
 - 発生農場は、本日午前、産卵率の低下や斃死などAI疑い症状が認められ、靈岩郡庁に疑い申告したと発表した。
 - ー同農場は、2017年12月10日に高病原性AIが発生した全羅南道靈岩郡の種あひる農場から約8km離れた既存の防疫帯内に所在しており、移動制限中であった。
 - ※ N亜型と高病原性かどうかは、2~3日後出る予定

- 農食品部は、同農場からの申告と同時に、鳥インフルエンザ緊急行動指針(AI SOP)に基づき、中央起動防疫機構及び中央疫学調査班を急派して、現場の遮断防疫措置と疫学調査を実施中であり、
 - また、発生農場の殺処分、移動制限及び疫学調査の結果に基づく、疫学関連車両と人、畜産関連施設の緊急遮断防疫措置を実施するようにした。
 - 併せて、農食品部はAIの追加拡散を防ぐために、家きん農場と渡り鳥の飛来地訪問を控える、疑似患畜発生地域の移動制限や消毒の実施などの防疫措置に、家きん飼育農場を含む国民の積極的な協力を要請した。